

# まちづくりや地域文化育成等で協力

札幌市立大デザイン学部・デザイン研究科と町が包括連携協定締結

厚真町と札幌市立大学デザイン学部・同大学院デザイン研究科が包括連携協定を締結し6月22日、総合福祉センターで協定締結式が行われ、宮坂町長と札幌市立大学の酒井正幸学部長、城間祥之研究科長が協定書に署名しました。協定に伴い、今後はまちづくりや地域文化の育成・発展、産業振興、人材育成、学術など、各分野で町と大学が連携していきます。

厚真町と札幌市立大学は、古民家の調査や移築・再生工事、活用方法の検討に同大の羽深教授が携わっているほか、第4次厚真町総合計画策定に係るまちづくり講演会の講師を原教授が務めるなど、各方面で深く関わっています。宮坂町長は「地方創生、そして今後のまちづくりにデザインという切り口で新しい示唆をいただきたいとお願いをしたところ、ご理解をいただき協定の締結となりました。厚真町で、大学が目指しているデザインという研究がどれだけ社会に貢献できるか新しい切り口で挑戦していただきたい」とあいさつ。酒井学部長は「デザインは時々刻々と変化する人々の暮らしや社会、産業の中から課題を見つけ出し、それを解決してビジュアルに提案していくもので、実際にフィールドに出て演習を行うことが大切。厚真町をもう一つのキャンパスとして位置付けていきたい。また、地域創生として北海道をデザインの力で再生するプロジェクトに取り組んでいる。厚真町と連携して、次世代の北海道の地域創生の姿を提示できれば」と話していました。



握手を交わす酒井学部長、宮坂町長、城間科長（左から）

## 元民生・児童委員の佐藤勉さんが瑞宝単光章を受章

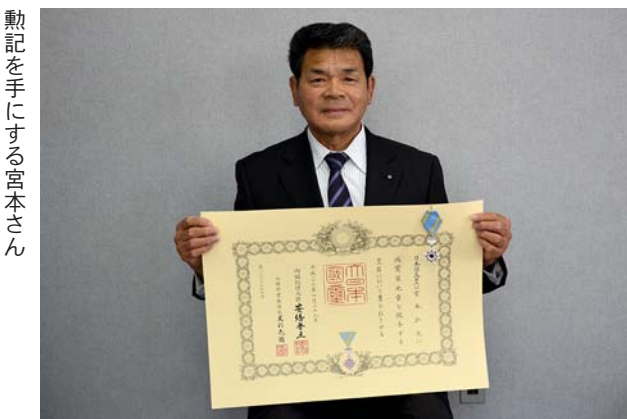
元民生・児童委員の佐藤勉さん（豊川・88歳）が瑞宝単光章を受章され6月3日、勲記と勲章が伝達されました。佐藤さんは、昭和46年12月から平成13年11月まで30年間にわたり民生児童委員として地域の福祉問題に取り組み、社会福祉の向上に貢献。また、平成4年3月からは厚真町社会福祉協議会理事に就任し、社会福祉の指導者として積極的に尽力されました。佐藤さんは「本当に感無量です。長い間、地域の方々の支えや家族の協力があつたからこそこの受章だと感謝しています」と述べていました。



勲記の伝達を受ける佐藤さん

## 元厚真支署長の宮本弘光さんが瑞宝単光章を受章

元胆振東部消防組合消防司令（胆振東部消防組合消防署厚真支署長）の宮本弘光さん（新町・67歳）が瑞宝単光章を受章され6月16日、勲記と勲章が伝達されました。宮本さんは昭和42年に札幌市消防局、昭和46年に厚真町、胆振東部消防組合へ勤務し、40年余の永きにわたり奉職。平成10年10月からは厚真支署長として、防火の徹底や技術の修練に努力を続け、火災予防活動や啓蒙活動に大きく貢献されました。宮本さんは「身に余る光栄です。本当に皆さんに感謝したいです」と述べていました。



勲記を手にする宮本さん

## Town Topics

## 6月のまちの話題

### 木を植えて森の力をよみがえらせよう イオン環境財団が旧ゴルフ場跡地で植樹



植樹を行う岡田理事長（左）と宮坂町長（中央、小玉胆振総合振興局長（右）

6月13日、町内高丘地区の旧ゴルフ場跡地で、公益財団法人イオン環境財団（岡田卓也理事長）が主催する「イオンの森づくり厚真町植樹」が開催され、イオン公募のボランティアや厚真町民、イオングループの社員など約600人が参加しました。

この植樹は、国内外でさまざまな環境保全活動を行っているイオン環境財団が、厚真町の基幹産業である農業に欠かせない水資源の安定確保に向けて厚真川上流に植樹を行い、森林が本来持つ水源涵養機能（森林の土壌が水を貯留し、河川などに流れ込む水量を平準化して洪水や渇水を防ぐ機能）を回復させることを目的に実施。植樹は3年計画で行われ、今年が第1回目となります。

当日はあいにくの雨模様の中、参加者はエゾノウミズザクラやハンノキなど5、400本を植樹しました。



### 山田澄恵さん（浜厚真）の乳用牛が2部門で1席

6月11日、北海道ホルスタイン共進会場（安平町早来）で平成27年度J Aとまこまい広域ホルスタインショウが開催され、安平町、苫小牧市、厚真町から乳用牛41頭が出陳しました。9部門に分かれて体長や体高、幅、輪郭の鮮明さなどが審査され、厚真町からは、山田澄恵さん（浜厚真）が5部（未經産シニアクラス）と7部（経産3歳クラス）で1席になりました。

### 豊作を願って・田んぼのオーナー田植え体験

5月31日、幌内地区のほ場で、町観光協会（寺坂文秀会長）主催の『田んぼのオーナー田植え体験』が行われました。当日は102人が参加。曇り空で時折雨が降る中、参加者は、ほ場管理を行っている小納谷守さん（幌内）から植え方などの説明を受けた後、田んぼのぬかるみに足を取られながらも、一つひとつ丁寧に苗を植えていました。



### 厚高生が事業所等で職場体験学習

6月9日から11日までの3日間、北海道厚真高等学校（岡本研校長）の3年生25人が、町内の13事業所で職場体験学習を行いました。これは、各職場で業務を体験することにより、働くことの意義を学び、社会人としての自覚を育むことを目的に実施されているもの。役場まちづくり推進課で職場体験を行った眞壁一樹くんは「役場の仕事には、事務や外での作業など、いろいろなものがあるんだなと思いました」と感想を話していました。

### マルチコプターで各学校等を撮影

5月27日と6月3日、鶴丸博野沢組（野澤政博社長）が町内の保育園やこども園、各小・中学校、厚真高校でマルチコプターによる撮影を行いました。これは、野澤社長が、普段見る機会のないマルチコプターを子どもたちに間近で見てもらいたいという思いから、各園・学校の協力を得て実現。当日は、マルチコプターの仕組みや有用性について説明を行った後、マルチコプターを飛ばして撮影を実施。子どもたちは興味津々の様子で見入っていました。







指導を受けサーフィンにチャレンジ！

## 子どもたちにサーフィンの楽しさを

6月28日、あつまビーチクラブ（丸山聡史会長）によるサーフィン体験会が開催されました。同クラブは、今年3月に町内のサーフィン愛好家で発足。浜厚真海岸の魅力を知ってもらい、子どもたちにサーフィンの楽しさを体験してもらうことで町内にサーフィン文化を根付かせていくことを目標に、今年は計8回の体験会を開催予定とのことです。

当日は、町内の小学3・4年生6人が参加し、スタッフから指導を受けサーフィンにチャレンジ。中には短時間でサーフボードの上に立てるようになった子もいて、保護者から歓声が上がっていました。

## 換地業務について知識を深める

町土地改良区（山田英雄理事長）主催の厚真町道営換地委員会委員研修会が6月25日、総合ケアセンターゆくりで開催されました。

当日は、町内5地区（道営東和地区、道営豊沢地区、道営豊共第1地区、道営豊共第2地区、幌内富里地区）の換地委員会委員や町、町農業委員会、J Aとまこまい広域、町土地改良区職員など約60人が出席。北海道土地改良事業団体連合会（土地連）から講師を招き、換地の知識や他県の事例紹介など、換地業務について知識を深めました。町では、平成10年から町内の約3,200㌥の農地を対象に道営ほ場整備が実施されています。



土地連の担当者による研修



グループでいじめの解決策を話し合う生徒たち

## いじめ撲滅！厚南中で全校生徒集会

厚南中学校（村田宏文校長）で6月24日、生徒会主催の「いじめ撲滅集会」が開催され、全校生徒がロールプレイとディスカッションを行いました。シナリオは、事前に生徒全員に実施したアンケート結果を基に生徒会が作成。グループごとのロールプレイ後、生徒たちは、自分が演じた役についてどう感じたかを発表し、解決策などを話し合いました。

集会後、生徒会長の畑田真穂さん（3年生）は「みんなが積極的にディスカッション等をしていて良かった。注意することは大事だけれど、注意の仕方とも考えなくてはいけないと思った」と感想を話していました。

## 年に一度は健康チェックを！住民健診

町が行っている住民健診が6月8日から12日までの日程で、町内9カ所の会場で行われました。

今年の受診者数は、特定・基本健診は972人、肺がん・結核検診は昨年より81人多い1,501人となりました。

この健診は、自らの健康状態を確認し、健康の保持増進や生活習慣病の早期発見・治療を目的として町が行っているもの。

ご自身の健康チェックのために、ぜひ年に一度は健診を受けましょう。



年に一度は健診を受けて健康チェックを

## 今年も熱戦！自治会対抗P G大会

6月25日、新町町民広場パークゴルフ場で「自治会対抗ナイターパークゴルフ大会（夏季）」が行われ、7自治会から11チーム50人が出場し、日頃の練習の成果を発揮するとともに交流を深めました。

【団体】優勝／新町A、準優勝／本郷団地A、3位／上厚真自治会、4位／本郷B、5位／南町A、6位／東和自治会、7位／本郷団地B、8位／本郷A、9位／南町B、10位／ルーラル自治会、11位／新町B

【個人】**男性**1位／山家文雄（本郷B）、2位／畑嶋征二（本郷団地A）、3位／小路幸則（南町A）**女性**1位／小牧純子（上厚真自治会）、2位／長橋恵美子（本郷団地B）、3位／小路順子（南町A）



たくさんのご参加ありがとうございました！



## J Aとまこまい広域が優良危険物関係事業所消防庁長官表彰を受賞

6月8日に東京都で開催された平成27年度危険物安全大会で、とまこまい広域農業協同組合（秋永徹代表理事組合長）が優良危険物関係事業所消防庁長官表彰を受賞し6月17日、秋永組合長が宮坂町長へ受賞報告を行いました。この表彰は、危険物の取り扱いに係る保安措置が特に優れ、保安監督者や従業員全般への保安教育が徹底しており、法令違反がなく他の模範となる事業所について消防庁長官が表彰を行うもの。同組合は昭和39年11月の事業開始以来、広範な地域で多様な危険物施設を維持管理しながら、50年以上にわたり無事故・無違反を継続していることから今回の受賞となりました。秋永組合長は「大変光栄なこと。これからも無事故・無違反を継続できるよう頑張りたい」と語っていました。

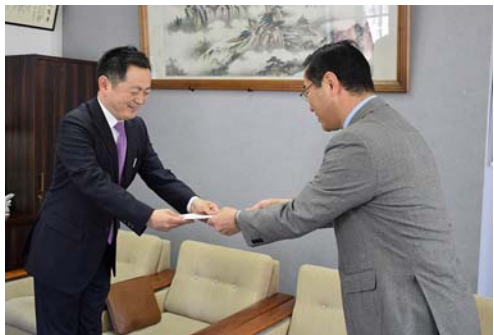


これからも無事故・無違反に心がけます

## 観光振興支援員に委嘱状を交付

6月1日、地域おこし協力隊・観光振興支援員の委嘱状交付式が行われ、新しく支援員となった原祐二さん（45歳）に宮坂町長が委嘱状を手渡しました。

原さんは大阪府寝屋川市出身。大学卒業後、千葉県浦安市の外資系ホテルに6年間、兵庫県神戸市のホテルに15年間勤務していたという元ホテルマン。委嘱を受け、原さんは「まずはイベントのお手伝い等をしてながら新たな観光資源を探したり、既存のイベントへのリピータを増やしたりなどの活動をしていきたいです」と抱負を語っていました。



宮坂町長から委嘱状を受ける原さん

## 厚真中・厚南中生が英語で厚真をP R

厚真中学校（渋川賢一校長）と厚南中学校（村田宏文校長）で6月4日（厚南中）と5日（厚真中）、中学2・3年生を対象とした、厚真町を外国人に英語でP Rする活動（A P R）が行われました。

今年度は、新設された新しい教科である「コミュニケーション科」の授業として実施。生徒たちは、各自で調べた厚真町の自然や文化等について写真等を用いながら英語でA L TにP Rを行いました。

また、同日には中学1年生を対象とした「外国人に英語で自己紹介やインタビューをする活動」も行われました。



A L Tに英語であつまるくんを紹介する生徒

## ようこそ厚真町へ！シェリダン校来町

6月26日、27日の両日、米国オレゴン州シェリダン日本語学校の生徒22人が来町し、厚真中学校、厚南中学校の生徒と交流を深めました。

シェリダン日本語学校と厚真の生徒たちは、2年前からクリスマスカードや年賀状のやり取り、ビデオレター等で交流。初日は、総合福祉センターでA P R（厚真を英語でP R）を実施。また、レセプションでは厚真の中学生が吟舞や和太鼓を披露し、夜は両中学校の生徒の家庭にホームステイしました。2日目は厚南中学校で日本文化体験が実施され、習字や日本箏、お手玉、コマ回し体験などで交流を深めました。



日本箏で交流を深める生徒たち